

(案)

胎内市生涯学習施設整備基本計画

令和6年8月

胎内市

目 次

I	はじめに	1
II	新たな生涯学習施設の整備方針	1
III	施設規模	2
IV	建設候補地について	5
V	今後のプロセス	7

I はじめに

第2次胎内市総合計画（平成29年度～令和8年度）の10年間において、生涯学習をはじめとする市民活動の拠点整備を行うべく、建設から60年以上経過し老朽化した中央公民館（1960年建設）と図書館（1958年建設）の機能を複合的に備え持つ新たな生涯学習施設の整備について検討を進めてきました。

これまでの経緯としては、平成29年度に市内において胎内市生涯学習施設検討プロジェクトチームを立ち上げ、令和元年度には社会教育委員、公民館運営審議会委員、図書館協議会委員や公民館・図書館の施設利用者、市内小中学校・高等学校の教諭や大学講師などで構成される胎内市生涯学習施設整備検討委員会を設置し、先進地の視察やワークショップを重ね、令和5年3月にこれまでの集大成として「胎内市生涯学習施設整備基本構想」（以下「基本構想」という。）を取りまとめました。

この基本計画は、基本構想を受けて、事業実施のための条件等を整理し、具体的な設計の指針とするものです。

II 新たな生涯学習施設の整備方針

基本構想で定めた施設の機能とサービスを提供するために必要な施設・設備や面積は、それぞれの機能ごとに算出しました。

実際の設計段階で機能的かつ効果的な配置を検討しますが、床面積については必要な機能を確保しつつ、将来の社会変化に対応できるよう人口推計や持続性も考慮に入れ、可能な限り効率化・縮小化に努めます。

区 分	整 備 方 針
1. 公民館機能 「生涯学習の拠点」	利用者の人数、目的用途別に応じ効率的な活用が可能となるよう、その種類と規模についてバランス良く整備します。
2. 図書館機能 「知と情報の拠点」	ゆとりあるスペースと充実した蔵書等必要な床面積を確保しつつ、求められる機能を十分に考慮して整備します。
3. 交流施設機能 「交流の拠点」	子育て世代をはじめ様々な年代が集う居心地の良い交流の場として、また、情報収集と発信の場を整備します。

その他、防災施設としての機能、ユニバーサルデザインの採用、ICT環境の整備と充実を図りSociety5.0に対応するなど、施設全体としての機能向上に努めます。

Ⅲ 施設規模

施設規模については、基本的に次の規模をベースに検討していきます。

1. 公民館機能面積

	室名	算定根拠	計算式	面積 (㎡)	畳数
1	会議集会室（大）	収容人数 100 人		140	84
2	会議集会室（中）	収容人数 50 人		85	51
3	会議集会室（小）	収容人数 20 人		45	27
4	和室（小）	20 帖	$1.65 \text{ m}^2 \times 20 \text{ 帖}$	33	19
5	和室（小）	20 帖	$1.65 \text{ m}^2 \times 20 \text{ 帖}$	33	19
6	水屋（茶室）	4.5 帖	$1.65 \text{ m}^2 \times 4.5 \text{ 帖}$	8	4
7	利用者用給湯室	$4\text{m} \times 2\text{m} = 8 \text{ m}^2$		8	4
8	ホール講堂	収容人数 120 人		180	108
9	音楽室	収容人数 50 人		80	48
10	音楽準備室	$3\text{m} \times 5\text{m} = 15 \text{ m}^2$		15	9
11	調理室	収容人数 40 人		80	48
12	調理準備室	$3\text{m} \times 5\text{m} = 15 \text{ m}^2$		15	9
13	創作室	収容人数 40 人		80	48
14	美術・工芸準備室	$3\text{m} \times 5\text{m} = 15 \text{ m}^2$		15	9
15	利用団体用倉庫	$20 \text{ m}^2 \times 5 \text{ か所}$		100	60
16	事務室	1 人当たり 7 m^2	$7 \text{ m}^2 \times 5$	35	21
17	給湯室	$2\text{m} \times 1.5\text{m} = 3 \text{ m}^2$		3	1
18	休憩室	$3\text{m} \times 5\text{m} = 15 \text{ m}^2$		15	9
19	倉庫	$3\text{m} \times 5\text{m} = 15 \text{ m}^2$		15	9
20	その他廊下等	他の面積の合計の 10%	$985 \text{ m}^2 \times 0.1$	99	59
計				1,084	646

2. 図書館機能面積

No.	室名	算定根拠	計算式	面積 (㎡)	畳数
1	閉架庫	210 冊/㎡	30,000 冊 ÷ 210 ㎡	143	87
2	一般開架スペース	120~160 冊/㎡	40,000 冊 ÷ 120 ㎡	333	202
3	青少年開架スペース	120~160 冊/㎡	30,000 冊 ÷ 120 ㎡	250	152
4	閲覧スペース	1 人当り 4.0 ㎡	50 人 × 4 ㎡	200	121
5	レファレンスコーナー	閲覧スペースの 20%	790 ㎡ × 0.2	160	96
6	学習スペース	【想定】1 人当たり 4.0 ㎡	20 人 × 4 ㎡	80	48
7	集会室	小 (20 人) 1.8 ㎡/人 中 (50~100 人) 1.2~1.5 ㎡/人	1.5 ㎡ × 50 人	75	45
8	PC コーナー	【想定】20 人程度 30 ㎡		30	18
9	ブラウジングコーナー	30~60 ㎡		60	36
10	郷土資料コーナー	【想定】60 ㎡		60	36
11	視聴覚コーナー	20 人程度 30 ㎡		30	18
12	対面朗読室	【想定】30 ㎡		30	18
13	点字図書コーナー	【想定】30 ㎡		30	18
14	こどもカウンター	3m×4m=12 ㎡		12	7
15	児童開架コーナー	1 人当たり 2.2 ㎡	50 人 × 2.2m	110	66
16	読み聞かせコーナー	30 人程度 1 ㎡/人	30 人 × 1m	30	18
17	コントロールカウンター	4m×6m=24 ㎡		24	14
18	レファレンスカウンター	3m×4m=12 ㎡		12	7
19	情報カウンター	5m×2m=10m		10	6
20	整理作業室	30 ㎡以上		30	18
21	事務室	1 人当り 7 ㎡	7 ㎡ × 5 人	35	21
22	給湯室	2m×1.5m=3 ㎡		3	1
23	休憩室	3m×5m=15 ㎡		15	9
24	倉庫	3m×5m=15 ㎡		15	9
25	トイレ	5m×8m=40 ㎡		40	24
26	多目的トイレ	3m×3m=9 ㎡		9	5
27	児童用トイレ	3m×6m=18 ㎡		18	10
28	授乳室	5m×3m=15 ㎡		15	9
29	その他廊下等	他の面積の合計の 10%	1,873 ㎡ × 0.1	190	114
		計		2,047	1,233

3. 交流施設機能面積

	室名	算定根拠	計算式	面積 (㎡)	畳数
1	ワークスペース		10m × 5m	50	30
2	多目的広場		25m × 20m	500	303
3	ギャラリー		10m × 10m	100	60
4	休憩スペース		6m × 5m	30	18
5	軽喫茶コーナー		9m × 7m	70	42
6	ロッカースペース		5m × 3m	15	9
7	こどもの広場		5m × 5m	25	15
8	共通エントランス		7m × 3m	21	12
9	インフォメーションカウンター		4m × 6m	24	14
10	トイレ	総合体育館と同等		60	36
11	多目的トイレ		3m × 3m	9	5
12	児童用トイレ		3m × 6m	18	10
13	授乳室		5m × 3m	15	9
14	パウダーコーナー		5m × 3m	15	9
15	※共通機械室			162	97
16	共通倉庫		8m × 10m	80	48
17	防災倉庫	総合体育館と同等	6m × 10m	60	36
	※共通機械室 ・発電機室 7m×6m=42㎡ (外置き可能) ・電気機械室 10m×6m=60㎡ (外置き可能) ・空調機械室 7m×6m=42㎡ (エアハンドリングユニット採用の場合) ・消防機械室 3m×6m=18㎡ (屋内消火栓想定) (受水槽は外置きとする)				
	計			1,254	753

■合計面積

施設名	面積 (㎡)	畳数
1. 公民館機能	1,084	646
2. 図書館機能	2,047	1,233
3. 交流施設機能	1,254	753
合計	4,385	2,632

合計面積には外構面積が含まれていません。立地条件等により異なりますが、駐車場の台数として250台分程度を想定しています。

IV 建設候補地について

新たに整備する生涯学習施設の建設地は、施設自体の面積が約 4,400 m²になることに加え、施設利用者に子ども・子育て世代もターゲットとしており、余裕のある駐車スペースや安全面を考慮した外構等が必要となるため、広い敷地面積が確保できる場所が望ましいと考えられます。これらを踏まえ、以下のとおり市有地及び民有地も含めた候補地を比較検討しました。

■候補地の比較（メリットとデメリット）

区分け：①敷地・環境、②アクセス・利便性、③コスト、④その他

メリ ット	関沢地内の市有地（通称：嘉平山）	中条駅付近等の市街地	ふれすぽ胎内付近
	①敷地・環境		
	<ul style="list-style-type: none"> ・広大な敷地が確保できる。 ・駐車場が広く確保できる。 ・静かな環境 ・緑地が多い。 ・住家から離れているため、楽器演奏等の音楽活動を気兼ねなく行える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場が広く確保できる。（ふれすぽ、B&G 駐車場共有）
	②アクセス・利便性		
	<ul style="list-style-type: none"> ・国道7号線に面しており、車でのアクセスがしやすい。 ・市街地から比較的近い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・街の中心地に近い。 ・子育て世帯が多いエリア（あかね町）が近い。 ・中条小・中学校の児童及び生徒の徒歩圏内 ・日常生活の動線内にあり、ついでに立ち寄りやすい。 ・駅の利用者に便利 ・気軽に寄りやすい。 ・電車通学の大学生や高校生が利用しやすい。 	
	③コスト		
	<ul style="list-style-type: none"> ・市有地のため用地購入費が不要 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなインフラの整備が少ない。 ・消雪パイプ敷設道路沿いの場合は除雪費用が発生しない。 	
	④その他		
	<ul style="list-style-type: none"> ・公園など、屋外の遊び場との併設も可能 ・敷地が広く、駐車場も十分確保できるため、滞在型施設の建設に向いている。 ・敷地が広く、設計の自由度が高い。 ・将来的に近隣の宅地・商業施設開発につながる可能性がある。 ・親水公園等の環境を整備することで近隣にはない独自の施設を構築できる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・街の中心地（本町通りなど）の活性化につながる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園など屋外の遊び場の併設も可能 ・体育施設との併用が可能

デ メ リ ッ ト	関沢地内の市有地（通称：嘉平山）	中条駅付近等の市街地	ふれすぼ胎内付近
	①敷地・環境		
	・高台で坂道を登らなければならなくなる。	・広い敷地の確保が難しい。 ・駐車場が狭くなる。	
	②アクセス・利便性		
	・街の中心からは少し遠い。 ・車がないと行きづらい。 ・徒歩、自転車では交通量の多い国道を横切ることを負担に感じる場合がある。		
	③コスト		
	・整備面積が大きくなり建設コストが高くなる傾向 ・上下水道等のインフラ整備の（イニシャル、ランニング）コストが高い。 ・冬期間の除雪費用が増える。	・適地の土地を新たに取得できるか不透明 ・駐車場用地を購入する必要がある。	・冬期間の除雪費用が増える。
④その他			
・熊出没の可能性がある。	・公園など屋外の遊び場の併設が難しい。 ・敷地が狭く設計の自由度が低い。 ・道路が狭いため、交通量が増えると安全性の問題が生じる。 ・中条駅利用者の駐車場に使われる可能性がある。		

その他、旧中条体育館の跡地は、市有地であるため用地買収費が不要ですが、現況の道路が狭小ため、車でのアクセスの利便性を考慮すると産業道路側、あるいは山側に新規に幹線道路の建設が必須と思われます。

これらの検討結果から、関沢地内の市有地が最有力候補と思われます。

V 今後のプロセス

基本構想では、新たな生涯学習施設は公民館と図書館の機能に加え、市民が集まる交流の場となり得る施設としてのプラスαの機能を加え、特に、子ども・子育て世代が集まる場所と環境を作り出し、これらの世代を中心として多世代間の交流が生まれ、深まり、交流の輪が広がることを目標としています。

よって、単なる文教施設ではなく人が集まる魅力を兼ね備えた複合的施設となります。カフェなどの飲食スペース等も求められており、民間事業者等と連携し、民間事業者のノウハウを活かしながら魅力ある施設を整備していくことが最良の手段と考えます。

■今後の進め方のイメージ



※サウンディング結果等により、スケジュールが変更となる場合があります。

■PPP/PFI 導入の進め方について

「にいがた PPP/PFI 研究フォーラム」等を活用してノウハウの蓄積や民間事業者との対話を図ります。

■予算について

国土交通省や内閣府などの補助金等の活用を探り財源の確保に努めます。

○SDGs の目標も取り込みながら複合施設として効果的に整備します。

<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>
<p>すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。</p>	<p>包括的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。</p>	<p>持続可能な生産消費形態を確保する。</p>	<p>パートナーシップで目標を達成しよう。</p>

1 図書館システム整備のための数値基準

日本図書館協会図書館政策特別委員会が1989年(2004年改訂)に公表した「公立図書館の任務と目標」より

■胎内市の人口から求めた図書館整備の数値基準

項 目	2024年1月末現在		2025年推計 ※	
1 人 口	27,242	人	20,306	人
2 延床面積	2,097.10	m ²	1,750.30	m ²
3 蔵書冊数	151,471.60	冊	118,178.80	冊
4 開架冊数	101,980	冊	84,571	冊
5 資 料 費	23,623,826	円	19,890,252	円
6 職 員 数	12.55	人	9.70	人

※「胎内市人口ビジョン」(R2.3月策定)P4掲載値(国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」より)

2 生涯学習施設機能検討図

別紙 生涯学習施設機能検討図のとおり